

山崎川をゆく(5)

山崎川の下流に行った。名鉄の金山駅から常滑線普通電車に乗り、4つ目の大江駅で下車。ここで降りたのは初めてだ。とにかく山崎川をめざして、車が行き交う広い道路「名古屋知多線」を北の方に歩いた。

まもなく山崎川にかかる「道德橋」に着いた。その横を名鉄電車が通り過ぎた。歴史を感じさせる橋の欄干だ。山崎川はここから西に下ると名古屋港。遠くにはガーデンふ頭「ポートビル」が微かに見える。



道德橋から河口にすこし下ったところも、1959年9月26日の伊勢湾

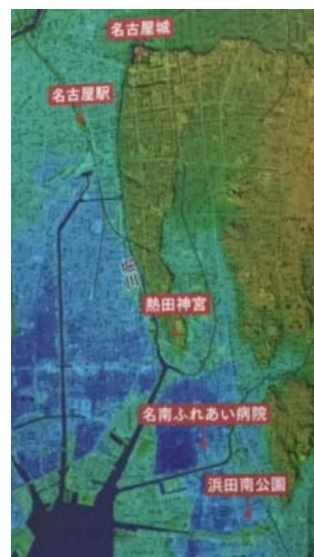
台風で堤防が決壊した。昨年8月、道德を歩いたとき、酒屋のご主人に指さして説明してもらったあたりだ。河口付近は川幅が広く、上中流に比べて水量も多い。猫洞池から流れる山崎川はすぐ暗渠に入り、本山交差点で顔を出す。水量はわずかだ。それが南区道德橋まで来ると、こんな大きな川になっている。下流域の道德地区では、伊勢湾台風でとりわけ大きな被害をもたらすことになった。



南区誌から一山崎川と堀川とにはさまれた道德方面は、堀川に沿う木場町の貯木場を高潮が越え、また山崎川右岸が数カ所にわたって決壊したため浸水したものであった。しかも、このような臨海部は長期にわたって水のひかない「たん水地域」となって、被災者の生活をより一層悲惨なものにした。

南区内にあっては20日~30日間のたん水が大部分であり、多くは1.5メートル~1メートルの水位であったが、特に道德地区の水位は3メートルと最高であった。このたん水は堤防の仮締切りが出来るまでは潮の干満につれて、そのさし引きが人々の不安をかきたて、また長期にわたるたん水のために家財道具は使用不能となり、さらには衛生上も問題がおきるなどして多大の損害を出した。

写真下は『名古屋地図さんぽ』から。「名南ふれあい病院」のあたりが道德地区。山崎川と堀川に囲まれ、ひととき濃いブルーが目立つ。名古屋南部でも、それだけ地盤が低いことを示している。ひとたび水害に見舞われると、長期にわたり水が引かない「たん水地域」となることがよく分かる。



(2017年6月4日)